

# 「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた現状分析と対策(案)

望ましい富士登山の在り方		指標	登山口	実績					現状 (平均値)	水準 (2024年 の目標値)	現状分析 (数値は2019年)	対策(案)
視点	区分			2015	2016	2017	2018	2019				
継承 十七世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の	頂上付近で御来光を拝む場合には、途中の山小屋で宿泊・休憩していること	伝統的な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休憩してから山頂で御来光を拝む登山者の割合	全体	69.0%	68.2%	77.7%	82.0%	77.3%	74.8%	80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間を通じて改善傾向</li> <li>2018年に一度達成しているため、これまでの取り組みを強化</li> <li>吉田口からの登山者が86.3%と高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弾丸登山の自粛や山小屋休息の推奨の継続</li> <li>五合目施設等でのガイドンス強化</li> <li><b>山小屋で休憩して山頂を目指す啓発を含む混雑動画の作成・広報</b></li> </ul>
	特定された山麓の巡礼路・登山道からの登山が行われていること	古くからの巡礼路としてルートが特定されている吉田口登山道における山麓からの登山者の割合	吉田	11.9%	13.7%	12.4%	11.7%	9.3%	11.8%	15%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間を通じて横ばい傾向</li> <li>伝統的な登山ルートの魅力啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>馬返からの伝統的な登山の神聖さをPR</li> <li><b>山麓からの登拝啓発を含む混雑動画の作成・広報</b></li> <li>中の茶屋(休憩所)のおもてなしを周知</li> </ul>
	山麓の神社・霊地等と登山道とのつながりが認知・理解されていること	山麓の神社や湖などを巡ったのちに富士登山をする文化的伝統を知っている登山者の割合	全体	32.9%	39.0%	47.0%	38.6%	43.1%	40.1%	50%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間を通じて改善傾向</li> <li>「以前から知っていた」32.2%、「今回の登山・訪問で知った」11.0%と後者の認知度が低い。若年層の認知度が低い傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山麓や五合目施設等での神社・湖を巡る伝統的な巡拝のガイドンス強化</li> <li><b>上記巡拝の啓発を含む混雑動画の作成・広報</b></li> <li><b>世界遺産巡りガイドマップ(日・英版)の配布</b></li> </ul>
		富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割合	全体	83.0%	88.2%	85.9%	82.2%	83.2%	84.5%	90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間を通じて横ばい傾向</li> <li>お盆周辺の調査日の回答が80.0%と低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御庭、奥庭、御中道の散策ガイドンス促進</li> <li>五合目建物の看板修景、展望広場の紹介</li> <li>飲食・ゴミのマナー啓発</li> </ul>
好な展望景観の維持	山小屋・防災関連の施設等の登山者のための施設が自然と調和していること	自然と調和しない人工構造物による登山道沿いの景観阻害	全体	なし	なし	なし	なし	集計中	-	非調和的要素が予見又は発見されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間を通じて目標を達成しており、今後も現状維持が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備に当たり、施設設置者・機関との協議を継続し、景観影響の回避、軽減を図る</li> </ul>
	浸食・植生等の変化による展望景観への影響が抑制されていること	五合目以上における登山道の浸食や植生等の変化による展望景観の変化	全体	なし	なし	なし	なし	集計中	-	負の影響が予見又は確認されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間を通じて目標を達成しており、今後も現状維持が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下山道の巡視と維持管理</li> <li>富士山レンジャー等による啓発活動を継続</li> </ul>
登山の安全性・快適性の確保	登山装備・登山マナー等が理解されていること	登山道や山頂付近でゴミをよく見かけた登山者の割合	全体	-	26.8%	19.6%	19.3%	22.4%	22.0%	15%以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間を通じて横ばい傾向</li> <li>お盆周辺の調査日の回答が43.9%と高い。お盆など混雑する日の啓発強化が重要。</li> <li>日本人22.4%に対し外国人7.4%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登山口におけるマナー啓発品の配布</li> <li>富士山レンジャー等の巡視強化</li> <li>売店・山小屋の協力による注意喚起</li> <li>お盆等の混雑日、外国人への上記取組強化</li> </ul>
		人的要因による文化財き損届の件数	全体	1件	0件	2件	0件	集計中	0.75件	0件	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標達成の年も複数ある。今後も取組の継続が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財パトロール等による巡視</li> <li>マナーガイド等での周知</li> </ul>
		吉田口から登山し、誤って須走口に下山した人の割合(須走口五合目富士山ナビゲーター対応実績)	吉田須走	0.72%	0.48%	0.54%	0.92%	0.62%	0.66%	0.4%以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間を通じて横ばい傾向</li> <li>ナビゲーターが対応した下山誤りの約9割が外国人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下山道分岐点の誘導員配置、音声ガイドの継続</li> <li>五合目施設でのガイドンス強化</li> <li><b>分岐点での注意を含む混雑動画の作成・広報</b></li> <li>外国人への上記取組強化</li> </ul>
	過剰な登山者数による混雑・危険・不満を感じない登山ができること	山小屋やトイレなどの登山者への支援施設に不満を感じた登山者の割合	全体	-	19.1%	19.3%	21.9%	21.4%	20.43%	15%以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間を通じて横ばい傾向</li> <li>全体的に高い傾向。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山小屋関係者にアンケート調査結果を情報提供</li> <li>協力金によるトイレ改善の検討</li> </ul>
	夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数/日*を超えた日数	吉田	4日	4日	5日	6日	6日	5日	3日以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間を通じてほぼ未達成</li> <li>8月の土曜日、次が休みの日曜日に著しい混雑が発生する傾向</li> <li>悪天候の週末の次の週末に著しい混雑が集中する傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>混雑予想カレンダーのリニューアルと周知の継続</b></li> <li><b>効果的な混雑動画の作成と世界遺産センター等での放映検討、HP・SNS掲載による日程等変更促進</b></li> </ul>	
		富士宮	3日	2日	4日	-※	3日	3日	2日以下			

※2018年富士宮口：8/14以降のデータが欠損。8/13までに2,000人を超えた日はない。